

暗闇から少女が走ってくる

TK

暗闇から少女が走ってくる

暗闇から少女が走ってくる

ひざをすりむき

素足から血を流し

手足は泥にまみれ

傷つきおびえ血を流し

まるでおわれるように、逃げるように。

ずいぶん走ったのか、振り返り足を止める。

闇の中座り込みひざを抱え肩で息をする

少女が顔を上げると、遠くに一筋の光が

少女はほっとした表情をしたあと、困惑の表情を浮かべる

何かおかしい

どうする？

はやく走れ 観客

行くな戻れ 違う声

森へ逃げろ 違う声

武器を探せ 違う声

魔法を使え 違う声

仲間を呼べ 違う声

違う声違う声違う声 違う声違う声違う声

すべて自分が正しいと信じている

そしてそうしない少女に不満をぶつける

もう走れないのに

戻ったらつかまってしまうのに

森には猛獣がいるのに

武器なんてないのに

魔法使いじゃないのに

仲間はみんな捕まっているのに

嘆き嘆き嘆き嘆き嘆き嘆き

彼らは観客でしかない

たとえ
走れなくても
つかまっても
猛獣とあっても
少女がどうなっても
観客は
痛くも痒くもない
思ったとおりの物語であればのめりこみ
そうでなければ興味をなくし
気分によって言うことを変える

観客にできることは少女がどうあれ
見守ることのみのはずなのに

主人公の少女は苦悩しているだろう
主人公の少女はおびえているだろう
つらいだろう 悲しいだろう
泣き出したいかもしれない 叫びだしたいかもしれない
こんなはずではと思いたいかもしれない
しかしこれは彼女だけの物語
どんな言葉をつむようと
どんな動きを見せようと
どんな結末になろうと

少女はするのみ

ただ自らが信じた事を

立ち尽くすのみでは
物語は始まらない
ただ待つのみでは
物語は終わらない

信じたことをするのみ
少女に与えられた力はそれだけ

もし動けないならば
もし何もしないならば
もはや主人公ではない
舞台を下り
観客になるがいい
私の描く物語の
そして忌み嫌った批判や口出しをするがいい

ただ少女は
立ち上がるだろう
そして自らの
物語を奏でるだろう
主人公なのだから
この物語の主人公だから
たった一つの物語の主人公だから
私の愛した主人公だから